

2017年度 中国残留邦人への理解を深める集い

中国残留日本人孤児 の歴史を語りつぐために

主催：神戸市（委託団体：中国「残留日本人孤児」を支援する兵庫の会）

2017年11月19日(日)

新長田勤労市民センター別館

ピフレホール **入場無料・予約不要**

プログラム [13:00 ~ 16:15]

アトラクション 太鼓唄 七海さん演奏

中国残留婦人二世の体験談

「兄と弟 ~満州 おもいでへの河へ~」上映

講演「取材から見た中国残留孤児問題」柴谷 真理子さん

ザ・ドキュメント

「兄と弟 ~満州 おもいでへの河へ~」

第24回坂田記念ジャーナリズム賞（国際交流国際貢献報道）受賞

黒田一家は太平洋戦争が終わる一年前に、満蒙開拓団の一員として京都から中国東北部（当時の満州国）に渡り、父が現地で徴兵される。



残された家族が敗戦後、黒田兄弟（左・弟の孝義さん、右・兄の雅夫さん）たどり着いた先は難民収容所だった。幼い兄弟はそこで生き別れた。弟は中国人に引き取られ、母親の死後、兄は戦争孤児となった。兄は帰国できたものの、弟は48歳で「中国残留孤児」として帰国した。祖国日本は、帰国後の世話など家族に多くの負担をかけ、家族の関係まで壊してしまう。兄は再会を熱望した弟との関係が疎遠になっていることを哀しく思っていた。仲良くなりたいたのに、文化や背景の違いなどで起きてしまう擦れ違い。（2016年関西テレビ制作）

太鼓唄 七海（たいこうたなみ）さん

《プロフィール》 兵庫県出身。

古文書や屏風絵に残る太鼓編成の復活や再生、農業や漁業など生活や仕事のなかの人間のリズムに着目した作品など独自の視点からの作品制作を続ける。1992年より和太鼓音楽のルーツを探し日本全国を行脚。組太鼓や数々の演奏法の創始者のもとで学びアジアの音楽家らと音楽活動を行う。自治体や研究機関、JICAなどの事業のプロデュース・演奏・指導を手掛けながら、自ら郷土芸能を継承し、かつて芸能が持っていた世代間交流の場を復活させる試みを兵庫で展開。



助演は笛演奏家・あかる潤さん。

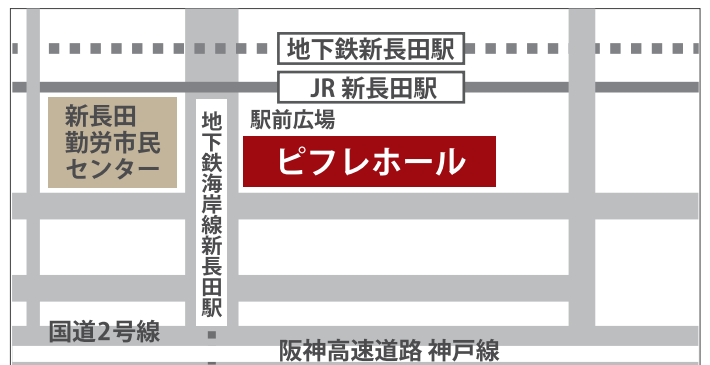
取材から見た中国残留孤児問題 柴谷 真理子さん（「兄と弟」制作者）

取材させていただいたご兄弟は、ともに人生で戦争の影響を強く受けていらっしゃいます。そしてある意味、戦後がずっと続き、それを背負って生きています。だからこそ、“忘れられる”ことに深い悲しみを感じています。



《プロフィール》1992年関西テレビ放送入社。2000年より報道局記者。現在は主にドキュメンタリー制作。

「罪の意味 少年A仮退院と被害者家族の7年」（FNNドキュメンタリー大賞）、中国残留孤児神戸訴訟を扱った「父の国母の国」（文化庁芸術祭優秀賞）、「軍神」（文化庁芸術祭優秀賞）など。最新作は「閉じ込められた命～語り始めたハンセン病家族たち～」



JR/新長田駅南側、市営地下鉄/新長田駅南側、

山陽電鉄/西代駅南へ徒歩7分

市バス/3・4・5・8・9・17・80・81・113の各系統「新長田駅前」下車

【お問い合わせ先】

中国「残留日本人孤児」を支援する兵庫の会

〒658-0072 神戸市東灘区岡本 1-14-10 岡本住宅ビル 3F

☎ 090-8539-7021（水野）